平成２８年度 第２回恵庭市水と緑のまちづくり審議会（議事録 要旨）

日　時：平成２８年１１月１４日（月）１４：００～１７：００
場　所：市民会館（２階）　視聴覚室

出席者：【委員】(12 名)
池永　允子・内倉　真裕美・内田　信一・大塚　武・岡田　宏一・岡本　浩一
尾谷　百合子・斉藤　浩二・豊田　栄・野原　聡・山口　裕美・吉田　愛子
【市】　(10 名)
（市長）原田　裕・（企画振興部長）後藤 昭悦・（企画振興部次長）大槻　雄二
（建設部次長）石川　義晴・（管理課主幹）萩原　由紀夫・（管理課主査）廣瀬　新
（管理課主査）林　辰徳・（花と緑・観光課長）茅野　寿也
（花と緑・観光主査）前田　孟志・（企画・広報課主査）早川　剛志
【事務局】(3 名)
（まちづくり推進課長）岡田 貴裕・（まちづくり推進課主査）遠藤 美樹
（まちづくり推進課主任）安藤　友晶
【傍聴者】(2 名)
欠席者：【委員】(1 名)
三浦　真吾

■議事　街路樹の維持管理について（現地視察・話題提供・意見交換）

(現地視察)
市内街路樹の維持管理状況について、現地視察。建設部より維持管理状況説明

(委員より話題提供)
専門家の見地より、３委員より話題提供

１．豊田委員（樹木医・樹木維持管理の専門家として）
現地視察の感想、街路樹管理目標（管理目標樹形）の必要性、樹木別にみた剪定手法について　など

２．斉藤委員（副会長）（ランドスケープデザインの専門家として）
現地視察の感想、都市づくりにおける街路樹の必要性・本来の役割について　など

３．岡本委員（都市及び地方計画の専門家として）
街路樹のまちなみ形成における役割（シミュレーションを通して）、市民参加型で行う街路樹維持管理の可能性について　など

(意見交換：各委員より一言)

（A委員）
街路樹はなくてはならないもの、癒しであると思っている。
車道側と、歩道側の建築限界、街路樹と電柱が近接している場合等に合わせた剪定を考えて欲しい。

（B委員）
街路樹はまちの宝である。街路樹の機能、効果、樹形、管理のルール、街路樹のあり方を伝える事が大事である。
恵庭もルールを作っていって、先進的に水・緑・花が一体となった街を作っていきたい。

（C委員）
あまりにも強剪定を行うと、将来的に木本体が全部枯れてしまう。
外側線から車道側に出たものと外側線より歩道側や歩道は剪定方法が違ってくる。
強剪定は樹にも良くないので考えて頂きたい。
業者の方と講習会を開き、市民、職員等も参加してもらい、皆で今後の街路樹の姿を作っていくような実地の講習会を毎年行い、街路樹の将来像を自分の子供や住み続けていく人に示していけたら良いのではないかと思う。

（D委員）
地域住民の人達は、樹は必要だとは認識しているが、行政と市民との役割分担がどこまでなのか分からないという話を聞く。市が統一した基準・マニュアルを整備する事が必要と考える。
市民の理解を得るために、情報提供と街路樹の必要性などの周知を行って頂きたい。
街路樹と公園の木に対して市民は区分して考えていないと思うので、街路樹・公園樹とも水・緑・花のまちづくりからいくと統一であるべきで、具体的に地域の中で議論できるようなものがあるとありがたい。

（E委員）
結局誰がやるのというところが中々難しいので、そこが一番重要だと思う。
折角集まって掃除するのであれば、町内会の出会いの機会になるかも知れない、「くじ」みたいなものを落ち葉に混ぜて、当てたら何かもらえるようにすると子供が出てきたりする。
他市の花火大会で、ゴミくず拾い＋宝探しをやった所がある。楽しみながらきれいにもなる、そんなことができたらいいなと思う。

（F委員）
20 年来河川敷地等の植樹に携わっているが、河川敷地に植えた木に対しても自宅の方に毛虫がやってくるから切ってくれという苦情があると聞いた、離れていても苦情を言う人は植樹に興味が無い人なのだなと思う。
視察では剪定して丸裸になっているところを見てすごく寂しい思いをした。
今後、街路樹のことや皆さんのご苦労も勉強したいと思う。

（G委員）
できるだけ落葉してから剪定して頂きたいとお話ししたが、現実的には非常に難しい、他市でもできていない事である。恵庭市で実現すれば、すばらしい美しい街路樹が造られると思う。
そのためには、管理するための目標の樹形を作り、葉張りや高さを決めて、樹木を造って行って頂きたい。

（H委員）
ゴミ収集車が剪定された葉を回収している姿を見て、息子が葉っぱを食べていると言っていた。
葉はゴミではないと思うので、息子になんて説明しようか答えに困った事がある。
葉は落ちてから拾うものという感覚を子供のうちから育てたい。
ゴミ拾い・雑草抜き・落ち葉拾いと名前をつけて、町内会単位で動くか、中学生の落ち葉拾い授業など、恵庭ならではの仕組み作ってみてもいいのではないか。

（Ｉ委員）
　折角、緑の街、花の街と言われているのに、街路樹が強剪定されているのは残念だ。
　皆で落ち葉を掃除しませんかと呼びかけをして、そこの家の前の人だけが大変にならなければ、街路樹に愛着が持てるのではないか。
　ハロウィンのイベントに多くの人が来ているが、同じように落ち葉拾いもイベント的にやるのも一つの方法だと思う、出来れば景品等があると良いがそれは別の話として。
　それだけではなく、協力できる体制を作り、皆でやったらどうかと思う。

（会長）
　現地を回っていて、街路樹の葉が木の上の方にあって、南国のようだった。町内会で、河川沿いに何の木を植えたらいいのだろうと言う話になったが、素人では何年経つとどれくらい芽が伸びて、どんな景観になるのか、全く想像が付かない。
　検討した結果、姫りんごになったが、他の木の方が良いと思っていた人からは、何かあった時に苦情が出ると思う。ただ、どれが正解かといわれると、どれも正解のような気がする。
　多数決の結果が良い結果とは限らないので、どれが正しいのか未だに迷っている状態だ。

（副会長）
　他市のメタセコイア並木も強剪定されていて写真を見ても本来の姿ではない。
　恵み野のイチョウ並木も強剪定をするから残った部分に密に枝葉が広がって生えている。
　伸びた部分はある程度切って、枝透かし剪定をすればそれなりに本来の樹形を残すことができる。
　恵庭のメタセコイア並木も本来の樹形ではない。ニオイヒバのように枝葉が密集することなく、もっと枝が下がって爽やかに枝葉を茂らせる樹木なので、剪定方法を考えて頂きたい。皆で工夫してやっていきたい。

（会長）
　街路に鉄のガードレールをつけるのは簡単だが美観は無い。街路樹であればそれがクッション役になって、ある程度事故も防げて、人間へ危害を最小に食い止めることができると思う。
　街路樹問題にこれという得策は無いが、徐々により良い方法で皆さんとの合意形成を図っていきたい。常に苦情ではやり切れないと思う。

（会議終了）